

シラバス

指定番号 120

商号又は名称：社会福祉法人大阪キリスト教女子青年福祉会

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できるように指導する。 ・尊厳を保持し、その人の自立および自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得できるように指導する。 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護の基本的な考え方	2.5	2.5	0	〈講義内容〉 ・理論に基づく介護…ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除について理解する。 ・法的根拠に基づく介護について理解する。 (演習) ・身近な事例を用いて、グループディスカッションを行う。
② 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	2.5	2.5	0	〈講義内容〉 ・学習と記憶の基礎知識、感情と意欲の基礎知識、自己概念と生きがい、老化や障がいを受け入れる適応行動とその阻害要因、こころの持ち方が行動に与える影響、からだの状態がこころに与える影響について理解する。
③ 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	7	4	3	〈講義内容〉 ・人体の各部の名称と働きに関する基礎知識を理解する。 ・骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用について理解する。 ・中枢神経系と体性神経に関する基礎知識について理解する。 ・自律神経と内部器官に関する基礎知識について理解する。 ・こころとからだを一体的に捉えるについて理解する。 ・利用者の様子の普段との違いに気づく視点を理解する。 <通信学習課題> ・からだの基礎知識。ボディメカニクスの基本原理。
④ 生活と家事	7	5	2	〈講義・実技演習〉 ・家事と生活の理解、家事援助に関する基礎知識と生活支援…生活歴、自立支援、予防的な対応、主体性・能動性を引き出す、多様な生活習慣、価値観について学ぶ。 (実技演習) ・家事援助について具体的な事例の実技演習をとおして学ぶ。 <通信学習課題> ・家事援助の意味と具体的内容。家事援助の留意点とポイント。
⑤ 快適な居住環境整備と介護	3.5	3.5	0	〈講義〉 ・快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障がい者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法…家庭内に多い事故、バリアフリー、住宅改修、福祉用具貸与について学ぶ。 (実技演習) ・福祉用具の活用方法及び支援技術を学ぶ。
⑥ 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	4	4	0	〈講義・実技演習〉 ・整容に関する基礎知識、整容の支援技術…身体状況に合わせた衣服の選択・着脱、身じたく、整容行動、洗面の意義・効果について学ぶ。 (実技演習) ・着脱介助等の介護技術を学ぶ。 ・事例は(要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可)から2事例を選択して実技演習を実施する。

<p>⑦ 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	5	5	0	<p>〈講義・実技演習〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動・移乗に関連する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者・介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援…利用者との介護者の双方が安全で安楽な方法、利用者の自然な動きの活用、残存能力の活用・自立支援、重心・重力の働きの理解、ボディメカニクスの基本原則、移乗介護の具体的な方法（車いすへの移乗の具体的な方法、全面介助でのベッド・車いす間の移乗、全面介助での車いす・洋式トイレ間の移乗）、移乗介助（車いす・歩行器・つえ等）、褥瘡予防について学ぶ。 <p>（実技演習）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動・移乗の介助技術を学ぶ。 ・事例は（要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可）から2事例を選択して実技演習を実施する。
<p>⑧ 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	5	5	0	<p>〈講義・実技演習〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事に関する基礎知識、食事環境の整備と食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援…食事をやる意味、食事のケアに対する介護者の意識、低栄養の弊害、脱水の弊害、食事と姿勢、咀嚼・嚥下のメカニズム、空腹感、満腹感、好み、食事の環境整備（時間・場所等）、食事に関した福祉用具の活用と介助方法、口腔ケアの定義、誤嚥性肺炎の予防について学ぶ。 <p>（実技演習）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事の介助技術を学ぶ。 ・事例は（要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可）から2事例を選択して実技演習を実施する。
<p>⑨ 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	8.5	7	1.5	<p>〈講義・実技演習〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴・清潔保持に関連する基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法…羞恥心や遠慮への配慮、体調の確認、全身清拭（身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方）、目・鼻腔・耳・爪の清潔方法、陰部清浄（臥床状態での方法）、足浴・手浴・洗髪について学ぶ。 <p>（実技演習）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足浴、清拭、入浴等の介助技術を学ぶ。 ・事例は（要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可）から2事例を選択して実技演習を実施する。 <p><通信学習課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴・清潔保持の基礎知識。入浴介助。清拭。
<p>⑩ 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	8.5	7	1.5	<p>〈講義・実技演習〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽やかな排泄を阻害する要因の理解と支援方法…排泄とは、身体面（生理面）での意味、心理面での意味、社会的な意味、プライド・羞恥心、プライバシーの確保、おむつは最後の手段／おむつ使用の弊害、排泄障害が日常生活上に及ぼす影響、排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連、一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的な方法、便秘の予防（水分の摂取量保持、食事内容の工夫／繊維質の食物を多く取り入れる、腹部マッサージ）を学ぶ。 <p>（実技演習）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者本人の力を活用し、気持ちの良い排泄の介護を行うための介助技術を学ぶ。 ・事例は（要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可）から2事例を選択して実技演習を実施する。 <p><通信学習課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄の基礎知識。排泄介助。

⑪ 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	5. 5	3. 5	2	<p>〈講義・実技演習〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法…安眠のための介護の工夫、環境の整備（湿度や温度、光、音、よく眠るための寝室）、安楽な姿勢・褥瘡予防について学ぶ。 <p>（実技演習）</p> <ul style="list-style-type: none"> 心地よい安眠を支援するための環境整備と技術を学ぶ。 事例は（要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可）から2事例を選択して実技演習を実施する。 <p>〈通信学習課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 睡眠に関する基礎知識。睡眠環境。睡眠不足の影響。
⑫ 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	6	4	2	<p>〈講義・実技演習〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援…終末期ケアとは、高齢者の死に至る過程（高齢者の自然死（老衰）、癌死）、臨終が近づいたときの兆候と介護、介護従事者の基本的態度、多職種間の情報共有の必要性を学ぶ。 <p>（実技演習）</p> <ul style="list-style-type: none"> ターミナルケアについてグループワークをとおして学び、介護者としての基本的態度を学ぶ。 <p>〈通信学習課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 終末期に関する基礎知識。キューブラ・ロスの死を受容するプロセス。
⑬ 介護過程の基礎的理解	3	3	0	<p>〈講義・実技演習〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護過程の目的・意義・展開 介護過程の目的と意義について理解する。 介護過程の展開プロセスについて理解する。 介護過程とチームアプローチ チームアプローチにおける介護職の役割と専門性について理解する。 <p>（実技演習）</p> <ul style="list-style-type: none"> チームアプローチについて事例をとおして学ぶ。
⑭ 総合生活支援技術演習	7	7	0	<p>〈実技演習〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 事例をとおして、生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す。 事例をとおして、利用者のところとからだの力が発揮できない要因を分析し、適切な支援技術の検討、支援技術演習、支援技術の課題に取り組む。 事例は（要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可）から2事例を選択して実技演習を実施する。
（合計時間数）	7 5	6 3	1 2	

使用する機器・備品等	実技演習使用備品一覧表（別添2-6）に記載した備品を使用
------------	------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。